

自校教育としての「現代生活論」

—生活デザイン学科における実践報告—

澤田 雅彦 白井 篤 花田 朋美

生活デザイン学科では、2年次前期の授業科目「現代生活論」において、「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマで学科所属の専任教員が講師となって自校教育を展開している。この授業の目的は、学生に対して自分が在籍する生活デザイン学科について考えることを通して、「大学生生活の目標を再確認させる」ことにある。また、自分と向き合うことで、自己発見・探求の機会として捉えて欲しいという意図もある。本授業後の学生からのレポートによれば、「教員が伝えたかったこと」については、「伝える力を身につける」が最も多く、受講学生の半数以上の50名が記述している。今後の学習目標については「表現力を身につけたい」「広い視野を持ちたい」「好きなことを見つけたい」など、大学生生活の方向性を明確にした記述が多い。

キーワード：自校教育 現代生活論 自己発見・探求の機会 伝える力

1. はじめに

自校教育とは、「大学の理念、目的、制度、沿革、人物、教育・研究の現況など、自校に関わる特性・現状・課題等を教育題材として実施する一連の教育・学修活動」と定義されている¹⁾。現在では、200前後の大学で自校教育が実施されている^{2)、3)}。本学においても、1年次前期に共通教育科目の中の1科目として「東京家政学院を学ぶ」という授業科目名で、理事長、学長、卒業生などが講師となって展開している。

生活デザイン学科においても学科が設置された2010年度から2年次前期の「現代生活論」（講義科目・2単位）において、「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマで学科所属の専任教員が講師となって自校教育を展開している。この授業の目的（ねらい）は、学生に対して自分が在籍する生活デザイン学科について考えることを通して、「大学生生活の目標を再確認させる」ことにある。学生は入学して約1年半が過ぎようとしている。

2年次前期に所属学科について考えることは、これまでの学びを振り返ると共に、これからの学び方について再確認することにつながると考えている。また、自分と向き合うことは、自己発見・探求の機会にもなる。生活デザイン学科は、衣食住の3領域からなる学科である。衣、食、住のいずれかを専門的に学ぶこともできるし、3領域を複合的に学ぶこともできる。学び方が自由である（学生自身が学び方を自由に選択できる）ことが生活デザイン学科の大きな特徴であり、そのことを再確認して、これからの学ぶ方向性を考えて欲しいという意図もある。河合塾の調査によると⁴⁾、「帰属意識や教員との関わりが強いほど、知識や能力が向上したと感じる学生が多く、学生の主体的な学びの醸成にも効果がある」という結果が出ており、そのことも、「現代生活論」において、学科所属の専任教員が授業を担当する理由となっている。

そこで、2018年度に生活デザイン学科において自校教育として実施した「現代生活論」の実施状況とその成果について報告する。

2. 現代生活論の概要

- ・ **授業概要**：多様な専門分野の教員による「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマの講義を通して、学生自身が「生活デザイン学科で何を学ぶのか」「生活デザイン学科で学ぶ意味は何か」といったことを考える機会を持つ。
- ・ **学習（到達）目標**：生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」を再確認できること。
- ・ **授業内容**：
 - 1 回目：授業内容の解説と授業日程の説明
 - 2 回目から 12 回目：各教員による講義

2. 「なぜ『生活デザイン学科で学ぶこと』を考えるのか」という問いを起点として、考えを具現化して人に伝える術を身につけることが、生活デザイン学科での学習の要点であることを解説。

3. 「家政学」「生活学」そして「科学」とは何かを考えながら、大学生のうちに、世の中の様々な情報を見極める力と、論理的思考方法を身につけることの大切さを説く。

4. 「メビウスの輪」を題材にして、数学のおもしろさと、小学生を対象とした学校外の教育活動の事例を紹介。

5. 「見つけましょう！時間を忘れるほどに夢中になれることを」というキーワードから、デザインとはなにかということと、デザインにおける発想のプロセスを説明し、パレエ衣装の歴史とデザインについても紹介。

6. 「私の歩み」と題し、自分自身の大学から現在までの教育・研究活動と関連づけながら「私の考える生活デザインについて」解説

7. 内藤ますと只野真葛という2人の女性のライフストーリーを紹介しながら、女性の生き方を考え、更に歴史を学ぶことと生活デザインの学びの関係について解説。

8. 「こだわり」をキーワードに、子どものエプロンの使用から見た服装史の事例、衣服のリサイクルの事例などを示して、生活デザイン学科での学び方について説明。

9. 自分自身の研究内容を紹介しながら、情報を伝える際には、正確に分かりやすく伝えることが必要であるだけでなく、「美しい表現」すなわち表現の味付けも重要であることを説明。

10. 子どもの言語習得のプロセスと、成人の外国語習得における問題点を説明し、外国語修得の意義と、成人が外国語を習得しようとする際の注意点について解説。

11. 思考マップの作り方を紹介し、発想方法について解説。「ゲーム理論事始め」と題して、ゲーム理論の考え方とその応用例を紹介。

12. 主にイギリスのキューガーデンでの体験を紹介しながら、生活デザイン学科で身につけて欲しい力、例えば「伝える力」「準備する力」について解説。

13 回目：まとめ

14 回目：レポート課題

[レポート課題の内容]

2 回目から 12 回目までの 11 回の講義内容を基にして、「生活デザイン学科で学ぶこと」はどんなことだと考えるようになったかを整理し、生活デザイン学科における自分自身の学習目標について、以下の要領に従って説明すること。

(1) 「生活デザイン学科で学ぶこと」の 11 回の講義全体の内容から、教員が伝えたかったことはどんなことだと理解したか、3 つ以上述べること。その際に、どの教員の、どんな話を基にしたかを必ず明記すること。

(2) (1) の説明と関連づけて、自分がこれから生活デザイン学科で学びたいこと、身につけたいことについて考察すること。

15 回目：レポート作成

3. レポート課題の記述内容について

学生からのレポート課題の記述内容についてまとめると次の通りである。なお、受講学生 80 名からレポート課題が提出されている。

(1) 教員が伝えたかったこと

講義全体の内容から、「教員が伝えたかったこと」について、学生からの記述結果を表 1 に示す。最も多い記述は、「伝える（表現する・発信する）力を身につける」である。受講学生の半数以上の 50 名が記述している。なお、この記述数には、アイデア（考え）を具体的な形にする（14 名）が含まれている。次に多い記述としては、「夢中になれることを見つける」「論理的な思考力を身につける」「広い視野を持って考える」「いろいろなことに関心や興味を持つ」が続く。

(2) これから生活デザイン学科で学びたいこと

講義内容を基にして、「生活デザイン学科で学ぶこと」はどんなことだと考えるようになったかを整理し、生活デザイン学科における自分自身の

表1 教員が伝えたかったこと

項目	記述数
伝える（表現する・発信する）力を身につける	50名
夢中になれることを見つける（自分の好きなことを見つける）	19名
論理的な思考力を身につける（考える力を身につける）	18名
広い視野を持って考える	15名
いろんなことに関心や興味を持つ	15名
興味を行動に移す	12名
いろいろなことにチャレンジする（やりたいことはとにかくやってみる）	11名
こだわりを持つ	10名
自分から行動する勇気を持つ（主体性を持つ）	9名
準備する大切さを知る	8名
他分野と交流する	7名
多くの人と関わる	6名
好きなこと、興味のあることから学んでいく	5名
学生のうちに様々な経験をする	4名
自分の可能性を広げる	4名
問題意識を持つ	4名
自分の意見をしっかり持つ	3名
母国語（母語）を豊かにする	2名
情報を正しく理解する	2名
今、目の前にあることを頑張る	2名
継続することの大切さを知る	2名
デザインをいろいろな角度から学ぶ	2名
基礎学力・生活力を身につける	1名
勉強以外のことも充実させる	1名
目標を持つ	1名
センスを磨く	1名
美味しい表現を身につける	1名
結果を予想して行動する	1名
発想力を身につける	1名
見たものを感じて考える	1名
人とのつながりを大切に	1名
周りの人から刺激をもらう	1名
自分の強みを見つける	1名
自分と違う価値観を認める	1名
「分かる」をたくさん作る	1名
経験と出来事を関連づける	1名
「今」という時間の使い方を考える	1名
自分と向き合う	1名
自分を愛してあげる	1名
楽しみながら実行する	1名

学習目標について記述した結果を表2に示す。「表現力を身につけたい」「広い視野を持ちたい」「好きなことを見つけたい」「人とのつながりを大切にしたい」「その他」に分類できる。

表2 これからの学習目標

<p>○表現力を身につけたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こだわり」を見つけ、そのこだわりを実現するための明確なアイデアを固め、それを人に伝える力をつけたい。 ・自分の考えを人に理解してもらえるように説明する力をつけたい。 ・自分のアイデアや考えを人に伝え、他の人の意見を聞いて自分のアイデアや考えを更に良いものに変えていける力をつけたい。 ・基礎学力を身につけ、幅広く興味や関心を持ち、より深く学び、自分を表現する力をつけたい。 ・自分の持っている力を最大限表現するために事前に準備し、土台を固め、相手に分かりやすくするために、簡潔に分かりやすく美しく表現できる力をつけたい。 ・考えを自分の言葉で発信する力をつけたい。 ・将来の道を広げるためにたくさん行動を起こし、受け身ではなく、自分から働きかけていくことができる多面的な感性や、体系的な知識や技術力、応用的な思考力、自分なりの表現力をつけたい。
<p>○広い視野を持ちたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学んでいる分野を中心に様々な分野の事を幅広く学びたい。 ・凝り固まった考えを捨てて、自分で柔軟な考えができるようになりたいし、人生を楽しみたい。 ・生活デザイン学科でしか学べないことをできるだけたくさん吸収したい。 ・幅広い視野を持ち、多角的思考力を身につけたい。 ・何事にも興味を持ち、視野を広げ、常に物事に対して「考える」ことを続けていきたい。 ・固定概念や先入観にとらわれずに、視野を広げて様々な角度から物事を考えられる力をつけたい。 ・自分で行動し、新しい発見や価値観を身につけ、いろんな事に関連づけられる力をつけたい。 ・自分の能力を磨ききかけは、周りを見渡してみると案外、落ちていたりする。普段の生活で周りを見渡す目を養える、そんな学びを積極的に行える姿勢を身につけたい。 ・人のことを考え、人が興味を持たないようなことにも興味を持ち、多くのアイデアを出せるような人になれるような力をつけたい。
<p>○好きなことを見つけたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなもの（こと）を見つけたい（極めたい）。 ・好きなこと、興味あることを見つけ出し、掘り下げて調べ考える力をつけたい。

○人とのつながりを大切にしたい

- ・人とのつながりを持つことで、自分にはない知識を身につけたい。
- ・積極的に多くの経験をして人としても成長したい。
- ・自分の考え方を他人に押しつけるのではなく、相手の考えも尊重し、なぜ、そのような意見を持ったのか、他の目線から物事を見られるようになりたい。
- ・身の回りにいる人たちと交流し、違う分野の情報や知識を聞き入れ、自分の分野の学びに結びつけて考えられる力をつけたい。
- ・人間の生活そのものが学びの対象になっている生活デザインの研究でたくさんの人と積極的に交流し、今まで自分が見ることができなかった世界の景色を見たい。

○その他

- ・やりたいこととしっかり向き合える心を身につけたい。
- ・考えることをおろそかにしない習慣をつけたい。
- ・自分にとって大事なことを学び取る力をつけたい。

- ・これから何が起こるか分からない未来だからこそ、それらを楽しんで今しかできないことを大切に精一杯生きていきたい。
- ・今、自分を取り巻く環境と一緒にいてくれる人を大切にして、実りある素敵なものにしていきたい。
- ・この授業で講義した先生方は、どの人も自分の人生に誇りを持ってきらきらした顔で凛としていた。そんな姿を見て、私も自分の進みたい道に勇気を持って進み、誇りを持って自分の人生を歩みたいと思った。

4. おわりに

(1)「教員が伝えたかったこと」について、学生からの最も多い記述は、「伝える（表現する・発信する）力を身につける」である。これは、生活デザイン学科の学科名である「デザイン」には、「伝える」という意味が含まれており、そのことを複数の教員が講義中に述べていることが要因の1つと思われる。

2018年度の現代生活論の履修者数は83名だったので、6割の学生が「伝える（表現する・発信する）力を身につける」の必要性を理解したことになる。また、「これからの学習目標」として「表現力を身につけたい」という目標をあげる学生もいた。次に記述が多いのは「夢中になれることを見つける（自分の好きなことを見つける）」の19名であるが、「こだわりを持つ」（10名）も同じ志向と考えられる。これとは反対の志向と思われるのが、4番目に多い「広い視野を持って考える」「いろいろなことに興味や興味を持つ」（ともに15名）である。「いろいろなことにチャレンジする」（11名）、「学生のうちに様々な経験をする」（4名）も、同様に「広い視野」に関連する記述と考えることができるであろう。

生活デザイン学科では、1つの専門分野を深めるだけでなく幅のある学びを学生に推奨している。「これからの学習目標」としても「広い視野」についての記述があり、この現代生活論の授業を通して、そのような学科の学びの特徴を理解してもらえたのではないかと考えられる。

その一方で、「論理的な思考力を身につける（考える力を身につける）」（18名）は3番目に多い記述であるが、このような記述は他に少ない。しいてあげれば「情報を正しく理解する」（2名）

(3) レポート課題を通して

レポート課題の中に、生活デザイン学科について書かれた記述を表3に示す。表4には、筆者が印象的と感じた記述を示す。

表3 生活デザイン学科について

- ・生活デザインの学びとは、デザインの学びを通して、考えを広げて将来の道を広げるという意味だと思った。
- ・それぞれの学びが他の学びを深め、自分を大きく成長させる学科。
- ・生活デザイン学科での学びは日々進化し続ける生き物である。それは、生活デザイン学科での学びが生活を対象にしたものだからである。生活デザイン学科で学ぶことは、これからの人生、生き方にも関わることである。従って、その学びは4年間で終わることではなく、この先も終わりはしない。

表4 筆者が印象的と感じた記述

- ・自分が置かれた環境で与えられたことをただこなすのではなく、自発的に取り組んで、自分の世界を広げて多くを学ぶことで、何かを決断しなければいけないときに選択肢がたくさんあるようにしたい。
- ・今よりもっと食に興味を持って夢に向かって学んでいきたい。その夢中で取り組んだ結果が知識として身についた時、自分の自信につながると思う。また、食の学びがしっかりしていれば、他の分野を学んだとき、得るものが大きいと思った。

が該当するかもしれないが、「伝える力を身につける」、「好きなことを見つける」、「広い視野」の記述に比べたら少数といえる。

(2) レポートについては、しっかり書かれたものが多かったが、次の2項目が印象として残る。

- ・教員が話したことを、そのまま信じる(受け入れる)記述がほとんどである。疑問や違った見方をするような記述が全くない。教員のひと言が、学生に大きな影響を与える可能性があることを十分考慮しなければならない。
- ・教員が話す(伝えたい)本当の意味を理解していないと思われる記述が多い。ほとんどの教員がパワーポイントを使用して講義をしているので、学生は、画面上で(目に見えるものだけを捉えて、本質まで見切れていないように感じる。これは、伝える側(教員)にも工夫が必要に思う。

(3) 現代生活論の講義を踏まえて、学生にレポートを課すことで、自分の大学での学びを振り返り、これからの学び方について考えるきっかけになったように思う。このことについて、学生に正しく理解してもらうため、次のようなコメントとレポートを読んだ感想を添えて、学生一人一人にレポートを返却している。

<学生へのコメント>

代生活論のレポート課題について

皆さん方に「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマでレポートを書いてもらった理由(目的・ねらい)は、次の通りです。

[理由(目的・ねらい)] 皆さん方が在籍する「生活デザイン学科」について考えることを通して、大学生活の目標を再確認して欲しい。

皆さん方は生活デザイン学科で学んで約1年半になります。今、この時(2年次生の前期)に、生活デザイン学科について考えることは、皆さん方自身のこれまでの学びを振り返り、これからの学び方について再確認することにつながります。

生活デザイン学科は、衣食住の3領域から構成された学科です。衣、食、住のいずれかを専門的に学ぶもよし、3領域を複合的に学ぶもよし、学び方は自由です。学び方が自由である(皆さん方自身が、現学び方を自由に選択できる)ことが生活デザイン学

科の大きな特徴です。自由には「責任」が伴います。これからの大学生活、どう学ぶか、よく考えて、卒業時に「よかった」と思える大学生活にしてください。

次に、学生生活を送る上で、いくつかお願いがあります。

(1) 自分を大事(大切)にして欲しい

皆さん方には、無限の可能性があると考えています。自分の力を信じて将来の道を切り拓いて欲しいと思います。一つ一つをよく考えて進んでください。時には、休む(立ち止まる)勇気も必要です。自分自身を大切にできない(自分の生活を大切にできない)人が、家族や友達、その他、大勢の人たちの生活をデザイン(幸せに)することはできないと思います。

(2) 学生生活を楽しんで欲しい

学生生活は一度きりです(通常は)。社会人と違って、学生には失敗が許されるという利点があります。いろんな事にチャレンジしてください。失敗する事(うまくいかない事)も多々あると思います。挫折感や自分の力のなさを味わうこともあるでしょう。その失敗が、あなたを大きく成長させてくれると思います。人生、うまくいくより、うまくいかない方が多いです。無駄な経験(体験)は一つもないと思います。

(3) よい習慣を身につけて欲しい

一般的に、社会に出てからではよい習慣は身につかないと言われていています。学生時代に学習習慣(学ぶ習慣、考える習慣、準備する習慣など)と、自己管理(時間管理[授業に遅れない、課題の提出期限を守るなど]、健康管理、感情の管理、金銭の管理など)する習慣をしっかり身につけてください。

レポートを読んだ感想を書く上で配慮した点は、教員が伝えたい本質を正しく理解していない学生には、間接的に分かってもらえるような記述とし、また、勇気づける(やる気を出させる)文言となるようにした所である。

<レポートを読んだ感想(主なものだけ)>

・「ピッチャー型人間になることが重要」とあります。確かに何かを発信することは重要です。ですが、「キャッチャー(受け手)」がいて、初めて「ピッチャー(投げ手)」が生きてきます。受ける側のことも考えた「ピッチャー型人間」になって欲しいと思います。ですが、大学では、常に発信する「ピッチャー型人間」で構わないと思います。教員が、あなたの投げたどんなボールでもキャッチャーとして受け止めますので、どんどん発信する習慣をつけてください。

- ・あなたがレポートの最後に書いた「自分の能力を磨ききっかけは周りを見渡してみると案外落ちていたりする。」という考え方は、正しいと思います。落ちているものを見逃さないように、しっかり「ものを見る目」、「感じ取る心」を鍛えてください。
- ・あなたが最後の方で書いた「自分は興味・関心がある一つをしっかりと学び、他は他を学んでいる人に助けをもらう。すべてを一人でやろうとせず、できるところ、できないところを補いながら助け合いの精神が大切だと思った。」という考え方は、素晴らしい（正しい）と思います。まずは、あなたのできることをしっかりと学んでください。しっかりと学んでいる人の所には、必ず、助けられる人が現れます。
- ・あなたがレポートの最後に「私は、先ず『伝える力』を身につけ、次に・・・」と書かれています。「伝える力」をつけるためには、「見る力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」などの多くの力を養う必要があります。しっかり、見て、聞いて、考えてください。それと「感じる力」も必要に思います。
- ・レポートの最後に、「自分の考えを人に説明できるように・・・」とあります。たぶん、今でも「あなたの考えを人に説明することはできる」と思います。ですが、ただ、説明するだけではなく、あなたの考えを正しく相手に伝える術を身につける必要があるように思います。その術（力）を大学生活で身につけてください。（伝える術を身につけることと同時に、伝える「もの」をしっかりと作る必要もあります。）
- ・あなたがレポートに書かれた次の二つについて印象に残ったのでコメントします。一つ目は、「今、広く学ぶことのできる、この生活デザインという切り口・・・」です。上に書いたように、衣、食、住のいずれかを専門的に学んでもよいし、3領域を広く学んでよいです。ですが、軸（柱）のようなもの「これで食べていける（働いていける・生活していける・お金を稼げる）」は必要に思います。軸がないとぶれてしまうように思います。軸を作る上で、広く学ぶという方法もありだと思います。よく考えて決めてください。二つ目は、「考えを自分の言葉で発信すること」です。他人の言葉ではなく、自分の言葉で発信することは、とても大切なことです。このことは簡単なようで非常に難しいと思います。自分の言葉

を持つ、すなわち、自分の考えを持つということにつながります。これができるような習慣を、ぜひ、大学生活で身につけてください。

- ・あなたがレポートに書いてあるように、人生、「選択」することが多いと思います。あなたの「選択」が、後々、自分で「良かった」と思えるように努力してもらえたらうれしいです。（仮の話ですが、AとBの二つの選択肢があったとします。Aを選んで成功する人は、Bを選んでも成功すると思います。どちらを選ぶかは重要ですが、それよりも選んだものが成功するように努力することの方がもっと重要に思います。）

(4) 自校教育については、各大学のとらえ方や位置づけは様々で実施形態も多様である¹⁾。多様性こそが自校教育の特色であり、授業としての可能性を持つと考える。生活デザイン学科の「現代生活論」に自校教育を取り入れて8年目を迎える。授業方法については、定着してきた感がある。今後は、授業内容の構成や15回の授業全体の整合性、成績評価の基準を含めて、授業評価や教育成果の検証を絶えず実施することで、本授業の教育の質を向上させていきたい。

参考文献

- 1) 大川 一毅：大学における自校教育の導入実施と大学評価への活用に関する研究、平成20～22年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究成果報告書、2011年3月、84p.
- 2) 奥田 宏志、榑原 暢久：芝浦工業大学における自校教育、「芝浦工業大学通論」に関する実践報告、第23回大学教育研究フォーラム（京都大学）、2017年3月、pp.110-111.
- 3) 大川 一毅：全国大学における自校教育の実施状況、大学教育学会誌、第31巻、第1号、2009年5月、pp.71-77.
- 4) Kawajuku Guideline: 帰属意識の醸成・学習共同体の形成、2017年9月、pp.44-51.

(受付 2019.3.26 受理 2019.6.6)